



## ロータリー財団は私達に何をもたらしたか？

国際ロータリー第2510地区

2011-2012年度 ガバナー **熊澤隆樹**

(小樽RC)

今月はロータリー財団月間です。1917年に当時のアーチ・クランFRI会長が「世界でよいことをしよう」と基金を作ろうとしてロータリー財団が誕生しました。

その後、1947年には創始者ポール・ハリスを追悼して寄付が急増しました。当初、教育的プログラムだけを支援していましたが、1960年後半には人道的プログラムを加え、その後、ポリオ・プラス、ロータリー平和センター、そして未来の夢計画と発展してまいりました。昨年7月からスタートした未来の夢計画は、いずれ国際ロータリーの戦略計画（長期計画）と統合されるといわれています。これによりロータリーの存在が大きくクローズアップされることになると思われます。

ロータリー財団というところから寄付を集める活動のように感じられてきたことは否めません。

しかし、2003年からは地区補助金制度がスタートし、3年前の財団寄付の50%が地区財団活動資金として戻され、当地区では国際親善奨学金（今年度3名の予定）、GSE（第1840地区ドイツ・ミュンヘンから来道）、マッチング・グラント（福島への放射線測定器の贈呈）、そして地域に密着した社会奉仕活動については申請の金額ないしは一部の補助がされています。

2010～11年度の佐々木年度では15件の申請があり13件に地区補助金が支出されました。2011～12年度では10件の補助金授与計画が出され総額244万円ほどになっております。これは2011年10月6日の新地区補助金、補助金監督委員会の決定で、羽幌RC、札幌西北RC、札幌手稲RC、札幌幌南RC、小樽RC、小樽銭函RC、恵庭RC、三石RC、函館セントラルRC、江差RCの10件です。昨年は13件2,152,500円、一昨年は12件2,407,000円でした。

今年度で福島への救援プロジェクトでは、地区財団活動資金（DDF）270万円、加えて災害復興基金388万円が使用されました。国際財団活動資金（WF）については、これまでにタイ、フィリピン、インドネシア、インド、トルコ等の地区の世界社会奉仕（WCS）プロジェクトに使われました。今年度も枠は小さくなるが申請してまいります。

私達に見えるところはこんなところですが、「世界でよいことをしよう」の標語の実践のために是非、会員皆様の引続きのご協力をお願いします。

最後に10月14日から16日の地区大会へのロータリアン1,496名のご登録に感謝申し上げますと共に今後とも活動にご支援をよろしくお願い申し上げます。